

サッカー競技においてボール保持率は勝敗にどのような影響を及ぼすのか？

松下 直樹 (競技スポーツ学科 情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：ポゼッション FIFA ランク チャンピオンズスポーツ

1、諸言

本研究はサッカー競技においての FIFA ランク上、「ボール保持率が勝敗に及ぼす影響」を下位が上位を倒した時に着目して研究したものである。ポゼッションサッカーが1番ダイレクトに結果にあらわれる確率の高い戦術なのだろうか？という疑問を抱いた事が全ての始まりである。現役時代ポゼッションが巧みなチームより、身体能力を駆使した泥臭いチームの方が嫌だったし、蹴りこまれたら恐い心境の時に、つなぎなおしてくれた事など、回されても勝った経験を幾度となくしてきた。ボールの保持時間に着目し、チャンピオンズスポーツにおいて1番大事な「結果」への反映を調査する。

2、研究方法

2010FIFA 男子W杯グループリーグ 11 試合
(下位が上位を下した試合のみ)

映像分析を行う。

ストップウォッチで時間を計測する。

- ① HOME のボール保持率
- ② AWAY のボール保持率
- ③ アウトボールの時間

また、アンケート調査も行い、現役選手のポゼッションに関する真相も参考にする。

3、結果

FIFA ランク上、下位が上位を食った試合に関しては、ポゼッション面で下位が結果的に8割負けている。中でも保持時間の差が1番開いた試合は図1のスペイン VS スイスでポゼッション率は63%と37%でボール保持時間に換算すると42分間と14分間というボール支配

差であった。

図1

	スペイン	アウト	スイス	フル
前半	22分	15分	8分	47分
後半	20分	24分	6分	50分

ポゼッション率では劣るが、結果は勝ちというチームは11試合中9試合であった。(内1試合は上位チームが退場選手を出している。)

4、考察、結論

ボール保持時間に着目すると、下位が上位を食った時の試合では、上記のように、ボール保持時間で負けているのに関わらず結果的には勝ったという試合が11試合中、9試合見られた。ここからいえることは「少ないチャンスをモノにし、失点を極力ゼロに近づける」ということが、下位が上位を下せることのできる統計である。その9試合での平均得点は1.7点、平均失点は0.3点という結果になった。

一、セットプレーをモノにするべし。

一、相手の必ず起こるべきミスに集中するべし。

一、守備時間をこちらの支配時間と捉え、強固でタフな守備を継続するべし。

一、ファールをたくさんもらえる個人スキルを身につけるべし。

5、参考文献

- ・史上最強バルセロナ世界最高の育成メソッド 著：ジョアンサルバンス
- ・スペインサッカーの神髄 著：小澤一郎
- ・日本サッカーを救う「超戦術」著：風間八宏
- ・考えよ！ 著：イビチャオシム